

公同礼拝

2025年1月12日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 大澤葉子

前 奏

招 詞 イザヤ書 65章17, 18節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 115編9～11節 (旧955)

使徒言行録 12章1～25節 (新236)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 2

説 教 「教会の祈り」 牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 194

献 金

頌 栄 543

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

1月の祈り

新しい年を迎え、主の恩寵と自分の歩みを回顧し、悔い改めと赦しに生きることができるよう。

教会の全ての働きが、主の導きによって導かれ、整えられ、伝道が力づけられるように。

戦火や被災地にある人々と教会、伝道者・信徒が支えられ、教会の回復が支えられるように。争いの地に平和がもたらされるように。

高齢で、また、体調などにより礼拝に集うことが出来ないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

今日の祈り

主に目を上げ、主を讃え、主の導きによって礼拝が守られるように。

この世界が主の御心に導かれ、憎しみを乗り越え平和を求めるものとなるように。

寒さ厳しい中であって、高齢者、弱っている人々が守られ、力づけられるように。

「教会の祈り」 姜 徑米

使徒言行録 12章1～25節

ここには、初代の教会を襲った大きな危機と、神様の力強いみ手による守りが語られています。危機の時に教会がしたことは一つでした。熱心に神様に祈ったのです。そして、ここで見つめておかなければならないのは、教会の祈りが、共に集まって祈る、共同の祈りであることです。

一人一人の個人の祈りは基本ですが、共に集まって共同の祈りを祈ることの大きな意義を私たちは知る必要があります。教会の共同の祈りにおいてこそ、神様の救いのみ業にあずかりつつ歩むことがで

きるのです。共同の祈りの中に身を置くことによって、祈ることのすばらしさ、その喜び、そしてそれによって力つけられ、慰められ、支えられることを体験していくことができるのです。

その祈りが聞き届けられました。ところが教会の人々は現実を信じることができない。「そんなことがあるはずはない」という思いが彼らの言葉にはあります。彼らは、熱心に祈り願いつつ、その祈りが本当に聞き届けられるとは思っていなかったということです。この姿に、私たちの中にも深く根を張っている不信仰が示されています。

私たちが、なかなか祈ることができない、祈りに身が入らないというのも、このことが原因なのです。祈るよりも自分で何とかしなければという思いが私たちの中にあるから、真剣に祈ることができないのです。私たちの中には、祈りを妨げるこのような不信仰があります。

けれどもこのことと共にここで見つめておきたいのは、このような不信仰を表した教会の祈りの中で、主が救いのみ業を行って下さったということです。神様は、私たちの祈りが、完全な祈り、完璧に信じて祈る、そういう祈りとなることによって救いのみ業を行って下さるのではないのです。

不信仰な、欠けだらけの私たちの祈りを、神様は喜んで下さり、待っていて下さり、その中で、恵みのみ業を行ない、私たちをそれにあずからせて下さるのです。

だから、私たちは祈ることができるのです。神様が、主イエス・キリストの十字架の死によって赦して下さり、恵みの内に置いて下さっているのです。その恵みに支えられて、私たちは祈ることができる者とされるのです。